

四海波庵



■ concept 2020年への思い

- 静かな綾 -

銀座には、様々な文化が交差することによって出来た、大きな綾がある。

2020年のオリンピックに向けて、その綾はさらに大きくなり続けるだろう。

その綾が、文化の違いによる摩擦で、ほつれてしまうことのないよう静かな綾を表現した。



■ motif 四海波籠

- 四海波静か -

この茶室は「四海波籠」という花籠をモチーフにしている。

この花籠の名前の四海波模様がこの茶室のシンボルである。

能の作品の一つ高砂に「四海波静か」という一節がある。

それは、国内外が平和に治っていることを意味する言葉である。

まさにこの「四海波静か」な空間がこの作品のコンセプトの目指すところであり、海を超えた多種多様な文化が、ここで調和されることを四海波の綾で表現した。



■ 構成

製作手順と構成パーツ

- 製作手順 -

1. スタイロフォームで土台を組む。

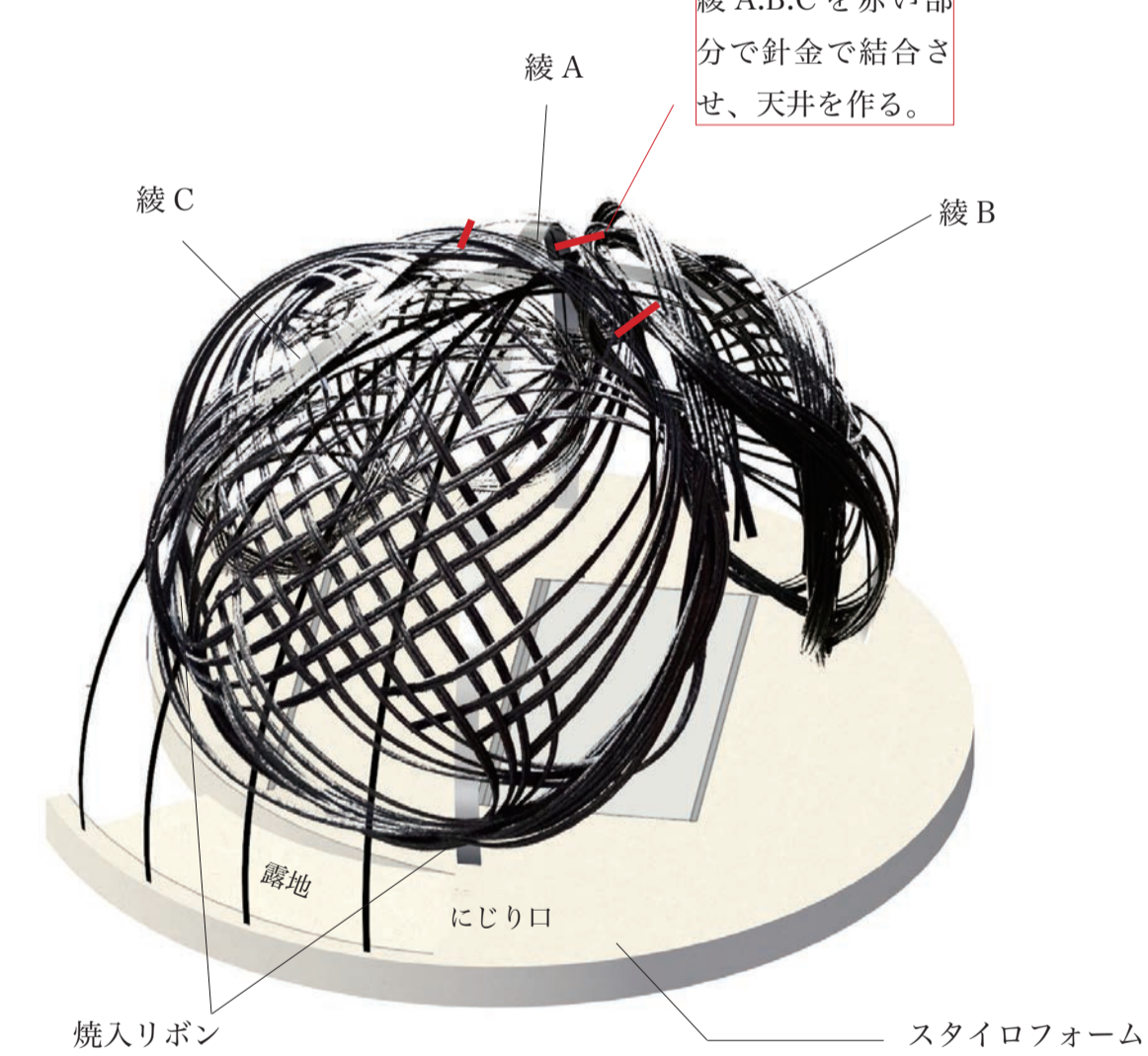
2. 四海波籠をクラフトバンドで平たく編んだものを大中小のサイズで作る。小さい方から綾A,B,Cと呼ぶ。

3. 焼き入りリボンを綾A,B,Cに通す。通した焼き入りリボンの端を土台のスタイロフォームに刺し、綾A,B,Cを立て、壁を構成する。この時焼き入りリボンが抜けたり倒れない様に、挿入部分を樹脂で固める。

4. 上部で綾A,B,Cどうしを針金で固定し、3つ結合させることにより、天井を構成する。これにより、強度も増す。

5. 露地部分から、対角線上に芯のあるものを渡し、露地に壁を設ける。

- 構成パーツ -



綾 A,B,C

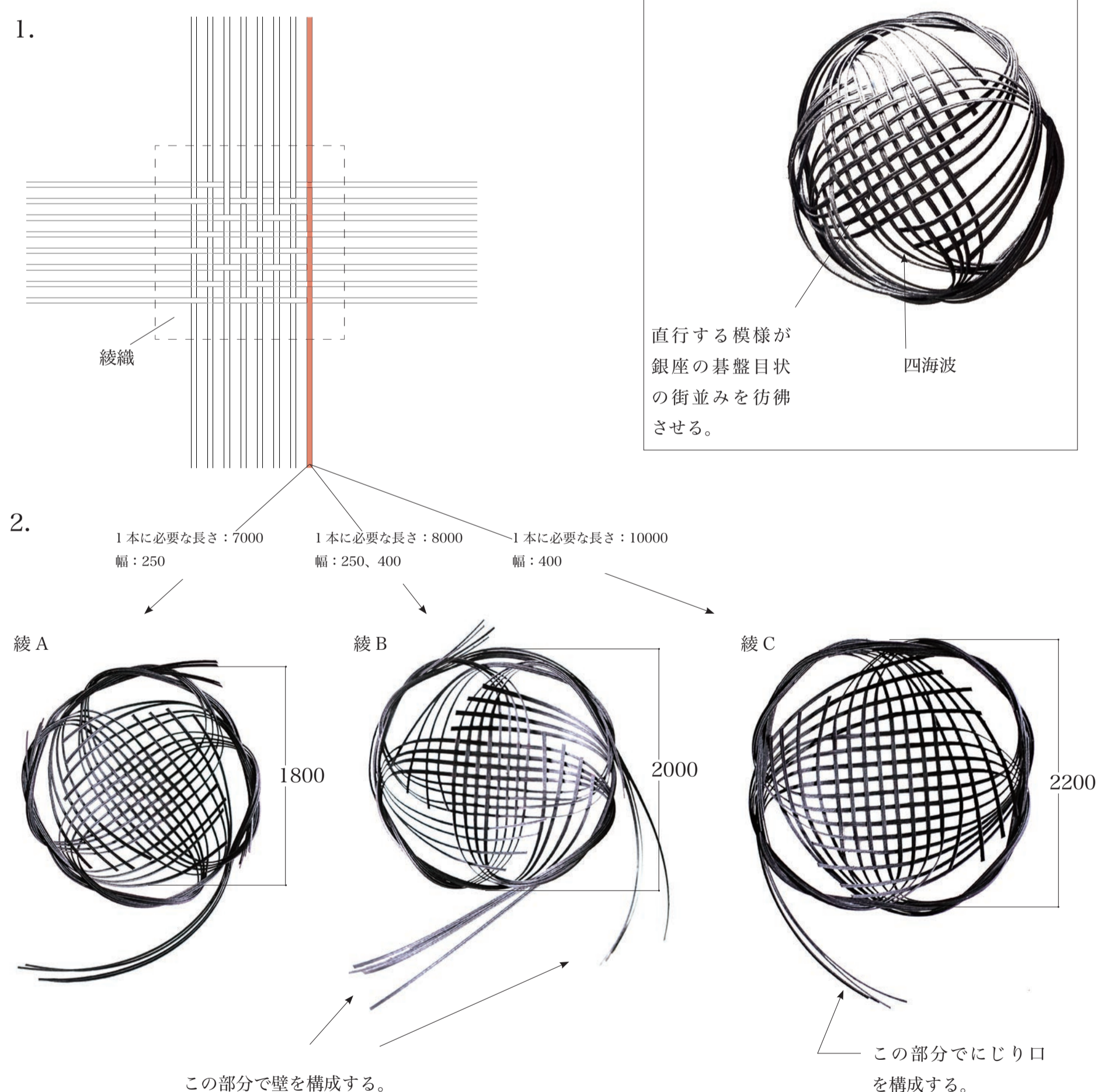
- 素材 -

素材は、かごバックなどに使われるクラフトバンドを使用する。クラフトバンドは軽く、立てかけ易いので、張りや強度があり、たわみが少ない。

- 作り方 -

最初に1の様にクラフトバンドを組む。この時、真ん中の組み方が従来は四海波籠を編む時4つ目編みという編み方をするが、ここでは綾織りに変更している。

そして、1を2の様に編んでいく。



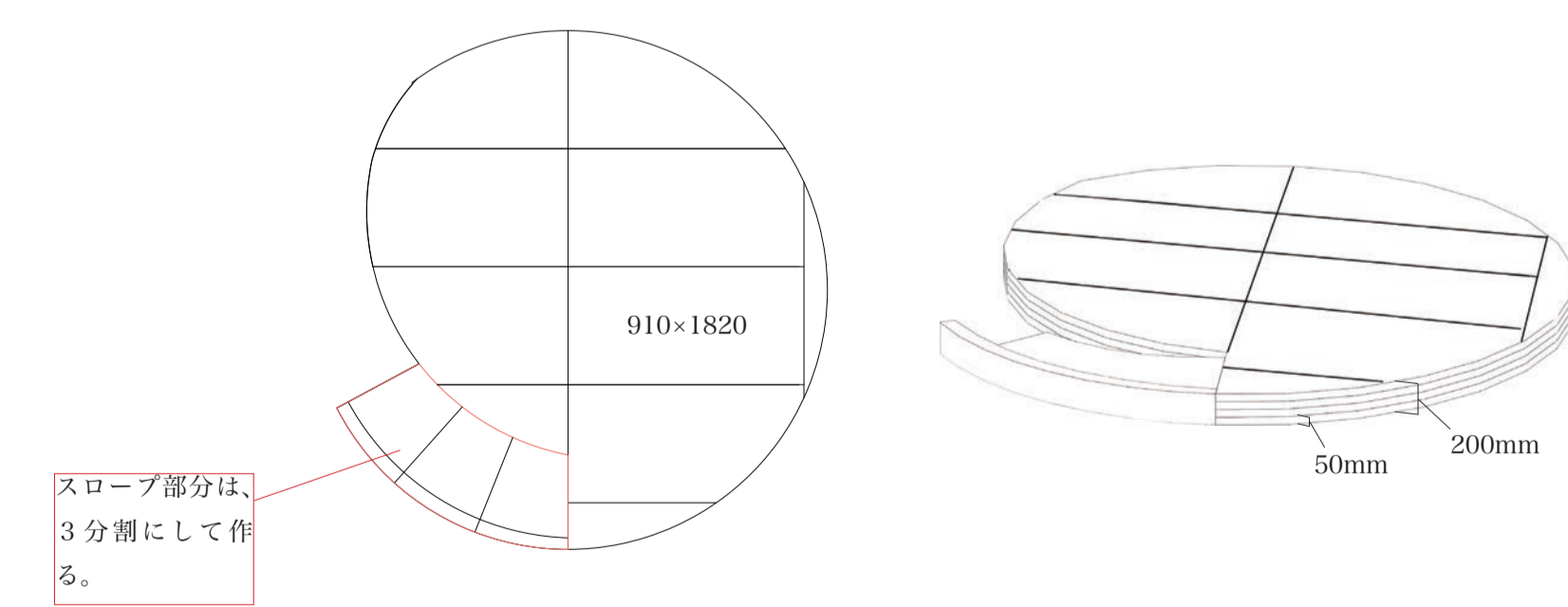
土台

- 素材 -

スタイロフォームを使用する。

- 組み方 -

スタイロフォームの大きさに限りがあるため、910×1820のスタイロフォームを右図の様に各パーツに分けて土台を組む。厚さは50mmのものを使用し、それを4層に重ね200mmにする。各パーツの接着はボンドを使用する。接着による結合力が弱い場合は針金を通して、強度を上げる。



■ S=1/50 屋根伏図

